

ただいま、御紹介を頂きました松本です。本日は、多くの仲間とともに、学位授与式という、私たちにとって大きな節目となる式典に臨むことができました。これは、ひとえに先生方、学生部の方々の支えがあったからだ、と考えております。本当に有り難うございました。

今日、この場で何を御話したら良いのか、本当に迷いました。講義におけるプレゼンや、修論審査会のときは、また、全く異なる緊張感がありますが、私自身が、今、この場で共有したい思いについて、御話したいと思います。

恐らく、修了生は皆、同じ思いだと思いますが、私も、この2年間を通じて、多くの学びがありました。SDMの序論など、必修科目の講義では、要求分析やアーキテクチャ設計をはじめとする基礎的な知識を学び、デザインプロジェクトでは、学んだ知識をどのように活用すべきなのか、ということ学びました。そして、多くの専門科目の講義において知識を補強していくなかで、より、実践の場で役立つ考え方も、身に付けることができたのではないかと考えております。

そして、修士研究では、私の場合、白坂先生の御指導のもと、多くの先生方の御助言や講義の内容を踏まえながら取り組んだわけですが、結果としては、職場で、新たな予算を獲得して、修士研究に関係するプロジェクトも立ち上げながら進めることができました。このように、今後につながるような形で職場を巻き込みながら、研究をまとめることができたのは、SDM研究科における学びの威力を示しているように感じています。

また、今日の明け方、このスピーチを考えながら確認したのですが、この2年間で整理した資料が、修士研究の内容も含んでいますが、キングファイルで50冊を超えていました。もともと、私自身、もうよい年ということもあって、聞いたことをすぐに忘れてしまう方なので、できるだけ細かく記録に残すようにしてきたのですが、この残した資料は、今の私にとって、大きな財産になっています。

よく、職場の人間関係について話すとき、『Give and Take』という言葉を目にすると思いますが、私自身は、『Give and Give そして、少しの Take』だと考えています。この『Give』、という行為をするためには、受け取る人にとって価値のあるアウトプットでないと意味がないわけで、この価値のあるアウトプットを作るために、この2年間、こつこつと整理してきた財産を活用していきたい、と考えています。

この2年間で振り返って、今、改めてこの研究科について考えたとき、ここは天才を育てる場所ではないんだと、私自身、正直なところ、発想力が貧弱だと常々劣等感を感じてきたのですが、このような私でも、だれであっても、世の中の課題解決につながるアイデアを作り、広めていくことの出来る考え方を身につける、学びの場所であったのだ、と考えております。

今日から、修了生はみな、新たな世界に踏み込んでいくことになるわけですが、私も、この研究科で学んだ内容を職場で積極的に発揮していきたい、そして、SDM研究科で学んだ内容を広めていくなかで、この研究科の魅力も伝えていきたい、と考えております。

以上、短いですが、SDM研究科のますますの発展、そして、修了生ひとりひとりのこれからの活躍を祈念しまして、修了に当たっての言葉とさせていただきます。2年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

平成29年3月28日

システムデザイン・マネジメント研究科修了生 松本雄二